

県立博物館で特別展開幕

平和の尊さいま伝える

2025年7月13日付・下野新聞1面



(269)

小学校高学年向け

年組

県都を襲った宇都宮空襲から80年を迎えた12日、県立博物館で特別企画展「とちぎ戦後80年 いま、おやと子で知る軍隊・戦争と栃木」が始まった。焼け野原となった宇都宮市中心部のジオラマや焼夷弾など空襲に関する資料も並び、来館者はじっくりと眺めていた。「あの日思い出さず」「平和について考えさせられる」。生々しい資料から送られるメッセージを受け止め、戦争の悲惨さや平和の尊さに思いを巡らせた。

再現ジオラマ 実物資料並ぶ

宇都宮空襲は、太平洋戦争末期の1945年7月12日深夜から翌13日未明にかけて行われた。米軍の大型爆撃機B29が115機飛来し、宇都宮市の中心部に多数の焼夷弾を投下。市街地の半分を焼き尽くし、死者620人以上、負傷者1128人以上、4万7976人が罹災する県内最大の戦災をもたらした。

宇都宮空襲は、太平洋戦争末期の1945年7月12日深夜から翌13日未明にかけて行われた。米軍の大型爆撃機B29が115機飛来し、宇都宮市の中心部に多数の焼夷弾を投下。市街地の半分を焼き尽くし、死者620人以上、負傷者1128人以上、4万7976人が罹災する県内最大の戦災をもたらした。



宇都宮空襲で焼け野原となった宇都宮市中心部を再現したジオラマ＝12日午前10時10分、県立博物館、河野光吉撮影

ほか、場所によって被害状況が違ふことまで分かるようになっている。

祖母から空襲について聞いたことがあるという同市鶴田町、公務員監原貴宏さん(49)は「街が炎で明るくなっている様子などを聞いていたので、状況がよく理解できた」と話した。息子の富士見小2年、啓汰さん(7)も「ここが全部燃えちゃったんだね」とジオラマを指さしながらつぶやいた。空襲で落とされたM47焼夷弾とM69小型焼夷弾など、宇都宮空襲に関する

も展示され、同市下栗町、無職杉野竹次さん(91)は「筒状の小型焼夷弾を見て「空襲後、これが田んぼにたくさん落ちていた」と当時を思い返した。焼失した大ケヤキから作られた仏像や、熱で溶け固まったくき、被災時刻を示した懐中時計、当時の写真など、宇都宮空襲に関する展示は約30点に上る。展示全体では近代的な軍制が整えられた明治初期から戦後復興までの人々の営みや、戦禍の影響などを約400点の資料でひもといている。8月31日まで。同館では下野新聞の戦前、戦後の記事や特集「遺構は語る 戦後80年」の記事も展示されている。

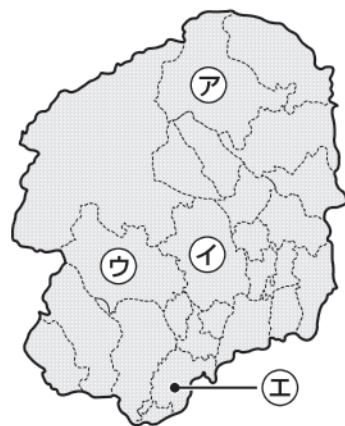
設問

【1】今年(2025年)で宇都宮空襲が起きてから何年たったでしょうか。

【2】次の文章は、宇都宮空襲の様子についてまとめたものです。記事を読んで、(ア)～(オ)に当てはまる語句を書き入れましょう。

宇都宮空襲は、(ア)戦争の終わりごろ、(イ)年7月12日から13日の朝にかけて起きました。アメリカの大型の飛行機(ウ)115機が宇都宮にやって来て、たくさんの焼夷弾という火事を広げる爆弾を落としました。この空襲で、宇都宮の中心地の半分くらいが焼けてしまいました。(エ)人以上が亡くなり、(オ)人以上がけがをしました。そして、4万8千人近くが暮らしの場を失うなど、大きな被害を受けました。これは、栃木県で一番大きな戦争による被害となりました。

【3】宇都宮市は、地図のア～エの市町のどれでしょうか。



【4】宇都宮空襲のような出来事を、どうして今の時代に伝えることが大切だと思いますか。